

氏名	辻 玲子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	老年看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	1994年慶應義塾看護短期大学看護学科卒業、1999年大分医科大学医学部看護学科卒業、2001年日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程修了、2017年～宮城大学大学院看護学研究科博士後期課程在学中				
経歴	2012年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会(役職)	日本認知症ケア学会(代議員、関東1地域部会長、査読委員)、日本老年看護学会、日本老年看護学会、日本看護管理学会、日本赤十字看護学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

### 【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
<b>(1) 著作</b>					
1	カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術 第2版	共著	医歯薬出版、全152ページ	大塚真理子編著、國澤尚子、服部都、沢田淳子、 <b>辻玲子</b> 、田中敦子、丸山優、出貝裕子、成澤健、細田理恵子、渡邊章子執筆	2018.10.
2	【QB】クエスチョンバンク ケアマネ2019	共著	メディックメディア、全608ページ	大口達也、奥田紀久子、木村彰吾、後藤佳苗、榎原宏昌、澤田如、鈴木政史、角田ますみ、宣賢奎、竹原直子、谷口泰司、 <b>辻玲子</b> 、中津川かおり、原田聖子、林裕栄、松村美枝子、馬淵敦士、宮崎伸一	2019.1
<b>(2) 論文</b>					
1	該当なし				
<b>(3) 学会発表</b>					
1	外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し介護者支援を行うための看護モデル開発(1)	単著	日本老年看護学会 第23回学術集会(久留米)	<b>○辻玲子</b>	2018.6
2	認知症高齢者の急性期治療時の支援を目指した多職種合同研修の成果 IPWコンピテンシー自己評価尺度を用いた評価	共著	第19回 日本認知症ケア学会大会(新潟)	○丸山優、田中敦子、須賀夏子、國澤尚子、畔上光代、 <b>辻玲子</b> 、菊地悦子、木戸宜子、鶴岡浩樹、大塚真理子	2018.6
<b>(4) その他</b>					
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	外来看護における高齢者虐待徴候発見と対応のためのプロトコル開発(研究代表者)		2015.4～2019.3	
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し介護者支援を行うための看護モデル開発(研究代表者)		2018.4～2021.3	
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)	認知症高齢者と家族の質の高い継続的な暮らしを目指した研修の社会実装と評価(研究協力者)		2018.4～2022.3	
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
<b>(1) 講義</b>					
1	老年看護学 I	2018.11	1年次生の、老年看護学実習 I の導入の講義を1コマ行い、実習のイメージをつけ、2年次の学習につなげた。		
2	老年看護学実習 I	2018.4～2018.6	2年次生に、実習前には地域で暮らす高齢者の特徴と理解、高齢者の健康とアセスメント方法など実習で活用できる内容を行い、実習後には実習先の高齢者を想起し、高齢者と地域のつながり、高齢者活用について講義した。		
3	認知症看護	2018.10.	4年次生に1コマ、卒業後の自己研鑽の仕方について(認知症看護認定看護師のことや認知症患者の事例検討会への参加等)を講義し、加えてオランダの認知症村ホグウェイや在宅ケア組織ビュードゾルフの視察報告をした。		

(2) 演習				
1	老年看護学Ⅱ	2018.4, 2018.7	3年次生に、4月は要介護高齢者の看護過程の展開のグループワークがスムーズに進むように助言を行った。7月は「移動援助」演習において、4グループへ高齢者体験装具を使用しての指導を行った。口腔ケア演習では、口腔ケアの必要性、スポンジブラシでの口腔清拭や口腔ケアモデルにて義歯の装着方法を指導した。	
2	老年看護学Ⅲ	2019.1	3年次生に、グループワーク(老年看護学実習Ⅱの体験の共有や高齢者の家族支援を考えるなど)への助言や発表へのコメントを行った。実習した病院・施設にとどまらず、まわりの地域との連携した支援に視野が広がった。	
(3) 実習				
1	老年看護学実習Ⅰ	2018.4～2018.6	2年次生20名を担当し、3か所の老人福祉センターにおける元気高齢者とのコミュニケーションを中心とした実習指導を4週間かけて(1人2日間)行った結果、高齢者へのイメージや捉え方が変化した。(科目責任者)	
2	老年看護学実習Ⅱ	2018.11～2018.12	3年次生23名を対象に、医療療養型病棟を使用して8週間実習を行った結果、看護展開しつつ、高齢者のペースや認知症の症状に合わせた援助や、高齢者の家族とのかかわり方を習得できた。	
3	総合実習	2018.7	4年次生4名が、回復期リハビリテーション病棟で3週間の実習を行った結果、自分の課題と向き合いながら他職種と協働し、今後の在宅生活を見越した退院支援の実践ができた。	
4	IPW実習	2018.8～2018.10	一訪問看護ステーションにおいて、4年生6名がそれぞれの学科の強みを生かしつつ、対象患者・家族の理解が深まり、IPW実習の目標が達成できるように、教員FTとして学生を支援し、施設FTとの調整を行った。	
(4) 論文指導				
1	看護学科 学部生 卒業研究	2018.4～2019.1	5名	
(5) その他				
1	老年看護学概論(非常勤講師)	2019.1～2019.2	上尾看護専門学校の1年生約40名への講義・演習を14コマ行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	いきがい大学春日部学園「歴史と健康を学ぶ科」講義	いきいき埼玉	認知症予防①「認知症とは」	2018.5
2	埼玉県介護支援専門員更新・再研修講師	埼玉県社会福祉協議会	ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種連携	2018.6
3	埼玉県介護支援専門員更新・専門研修講師	埼玉県社会福祉協議会	ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種連携	2018.7 2回
4	関東1地域部会 事例検討会	日本認知症ケア学会	多職種よれば文殊の知恵:メモなし、壁なし、だんまりなし(7月宇都宮、2月水戸)	2018.7と2019.2
5	看護研究研修・グループ別指導	鎌ヶ谷総合病院	講義と年7回のグループ指導、研究発表会講評	2018.5～2019.2
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	日本認知症ケア学会	関東1地域部会長		2014.4～現在
2	日本認知症ケア学会	第14回認知症ケア専門士認定試験 論文採点員、面接員		2018.10～2018.11
3	埼玉県看護協会 第9支部	教育委員(研修会、9支部交流会、市民公開講座、看護研究発表会担当)		2018.4～2020.3
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	東武よみうり新聞 平成30年5月21日号掲載	【県大発! 耳より健康情報】 第12回「認知症になりにくい生活習慣」		2018.5
5. 学内運営(委員会委員)				
1	認定看護師養成部会委員			
2	入試実施部会委員			
3	看護学科 実習計画調整会委員			
4	埼玉県看護協会 学内担当			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			